

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

新たな材料March(待ち) (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 伊藤 一輝

今週のドル円予想レンジ **108.00 ~ 109.50**

りそなWEEKLY COLUMN

東京五輪とコロナウイルス (P3)

関西みらいフィナンシャルグループ
ストラテジスト 荻谷 将吾

- 昨年から1年延長された東京五輪・パラリンピックは開催の方向で動いています
- 開催時点のワクチン接種の進捗見通しを鑑みると、通常開催は困難と予想されます
- 海外観客の受入れは断念、今後、国内観客の収容上限などを判断していく見通しです

2021/3/22

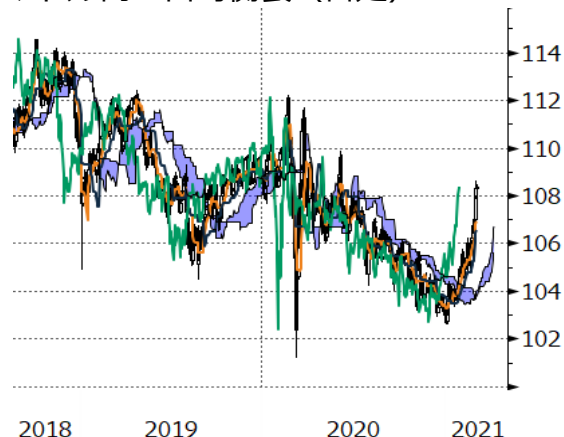
りそな外為レポート

新たな材料March(待ち)

今週のドル円予想レンジ **108.00 ~ 109.50**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表 (日足)



◆為替相場のすすめ

先週のドル円は108円後半から109円前半にて推移。FOMC では、参加者の過半数が「2023年の年末まで金利据置」を想定していることが明らかとなった。足元、上昇傾向を見せる長期金利について、パウエルFRB議長は黙認する姿勢を貫いた。

一方、日本では日銀が先週末に金融政策決定会合を実施した。長期金利の変動幅を0±0.25%程度とする旨発表されたが、円高方向への動きは限定的。市場の注目は依然として米金利の行方、といえるかもしれない。

主要国の中央銀行がひととおり金融政策の発表を済ませており、今週のドル円は比較的穏やかな動きを想定する。今週、パウエルFRB議長は3回の発言を予定するが、金利上昇を引き続き静観すると思われる。1.9兆ドル規模の追加景気刺激策は早期に効き目を発揮するだろう。景気・消費・雇用などの経済指標に与えるインパクトは如何ほどか、見極める時期となりそうだ。

(カスタマーディーラー 伊藤 一輝)

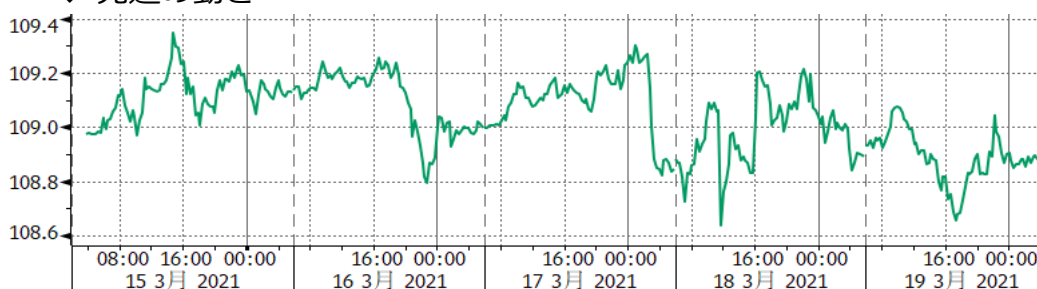
◆ 今週の日程

22日(月) 米 2月中古住宅販売	24日(水) 米 2月耐久性受注
23日(火) 日 2月百貨店売上高	25日(木) 日 40年国債入札
23日(火) 米 20/4Q 経常収支	26日(金) 日 3月都区部CPI
23日(火) 米 2月新築住宅販売	26日(金) 独 3月IFO景況感指数
24日(水) 欧 3月PMI	26日(金) 米 2月個人所得・消費支出

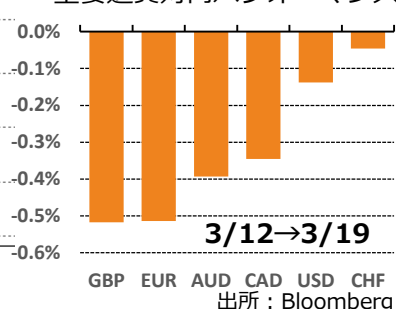
◆ 今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 3月19日(金) 108.88円 VS 3月26日(金)

東京										大阪			埼玉			
井口	中根	石川	湊	小新	田中	中里	伊藤	村永	小林	鈴木	武富	上野	小林	津田	石井	佐藤
↓	↓	↓	↑	↓	↑	↑	↓	↑	↑	休	↓	休	↓	↑	↑	↑

◆ 先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2021/3/22

りそな WEEKLY COLUMN

東京五輪とコロナウイルス

- 昨年から1年延長された東京五輪・パラリンピックは開催の方向で動いています
- 開催時点のワクチン接種の進捗見通しを鑑みると、通常開催は困難と予想されます
- 海外観客の受入れは断念、今後、国内観客の収容上限などを判断していく見通しです

関西みらいフィナンシャルグループ
ストラテジスト 荻谷 将吾

東京五輪・パラリンピックに関して、五輪担当相の交代や聖火リレー走者の辞退が相次ぐ等、開催に向けて順調とは言い難いものの、7月の開催まで約4か月となりました。東京五輪の課題や今後の予定についてまとめました。

概要



日程

東京五輪 2021年7月23日（金）～ 8月8日（日）
東京パラリンピック 2021年8月24日（火）～ 9月5日（日）

チケット

昨年7月から1年延期され、今年の7月に開催の予定です。既にチケットを購入された方のうち、希望者には払戻し措置がとられましたが、実際に払い戻された方は約2割のようです。

Ticket	販売済み	うち払い戻し
五輪	約455万枚	81万枚 (18%)
パラリンピック	約97万枚	20万枚 (21%)

(各種報道より作成)

動員観客人数（推計）

観客とスタッフ：約1,010万人、1日当たりの動員数は最大92万人
(海外からの観客約100万人)
選手の数：約1.1万人
海外のコーチ・メディア・ボランティア等：数万人

コロナウイルス対策

開催期間中は勿論、開催前においても、感染再拡大対策をとる必要があります。選手・コーチ・スタッフ・観客の全員がワクチンを接種、抗体を持った上で参加することが理想ですが、現在のワクチン供給・接種体制を見る限り、現実的とは言えません。その為、以前から指摘のあったように、観客数に上限を設ける等が検討されているようです。

ワクチン接種の進展具合

政府の示すスケジュールでは、現在の医療従事者の接種後、4月から6月までに高齢者の接種を完了させ、持病のある方や高齢者施設で働く人などに接種を進めていく見通しです。スケジュール通り進んだとしても東京五輪開催の7月の時点では、ワクチンを接種した人の割合は人口の約30%程度に留まり、集団免疫の獲得に必要とされている70%以上の接種率には程遠い為、現在と同様の感染対策が必要と考えられます。

2021/3/22

りそな WEEKLY COLUMN

観客の受入れ

3月20日に開催された東京オリンピック・パラリンピックの組織委員会と国際オリンピック委員会（IOC）や国際パラリンピック委員会（IPC）、そして東京都と政府による5者会談では、海外からの観客の受入れについて正式に断念することが決定しました。国内外のコロナウイルスの感染状況を勘案すると致し方ないですが、今回は国内の観客のみでの開催になりそうです。

➤ 経済への影響

海外観客の受け入れを見送った場合、宿泊・飲食・観光・交通等のインバウンド消費がなくなることによる経済損失は1,500～2,000億円との見方が多いようです。もっとも、日本の年間GDP比では0.03%程度に留まっており、大幅な景気悪化要因にはならない見通しです。金融市場においても、既に通常開催が困難であることが前提となっており、その影響は限られるとみられています。

➤ 今後の予定

3月20日に海外観客の受入れを断念しましたが、4月中にも国内観客の収容規模について判断する予定となっています。緊急事態宣言が解除された後には、4月のテスト大会に向けて、海外からの選手やコーチの入国を特別に許可する見通しようです。

主な日程	
3月中	海外からの観客受入れ可否の判断 ⇒ 20日断念
7日	緊急事態宣言期限 ⇒ 延長
10～12日	IOC総会
21日	緊急事態宣言期限
25日	聖火リレー開始
4月中	観客数の収容上限について判断
3日～	五輪テスト大会開始（車椅子ラグビーから開始）
7月23日	東京五輪
8月24日	東京パラリンピック

（各種報道より作成）

➤ 最後に

コロナウイルスの拡大懸念の観点から東京五輪の開催には賛否が分かれるところですが、現在政府やIOCは開催する前提で準備を進めています。「東京五輪が希望のメッセージ」（IOC会長）になることを願って止みませんが、実際に感染された方や医療現場の方、収束に向け自粛している国民の努力を十分に考慮した上で、東京五輪・パラリンピックが国民の希望に繋がれば、と思います。

以上

